

# 湖都通信

看護学科版

01

[創刊号]

Coto Tsushin  
[Nursing subject Version]

2015. 4. 1

滋賀医科大学同窓会「湖医会」



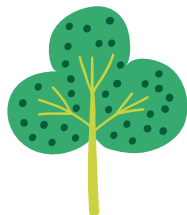
## CONTENTS

看護学科版創刊にあたって	渡辺一良・白石知子・山下 敬・今本喜久子	2
会員からのたより	山下正妃・烏谷康子・河田志帆・酒井理香・井手敬昭・犬井景子 土川 祥・戸田さやか・平川まり子・嶋田安希・宮崎真衣	6
同期会 卒後10年会（8期生）	實來徳子・徳川早知子	12
卒後 5年会（13期生）	大西愛美・嶋田安希	13
看護学科交流懇談会（第14回）	中込昌幸・田村明音・伊藤安那	14
支部会 滋賀支部発足	渡辺一良	16
新役員決まる	渡辺一良	18
訃報		20
事務局から	総会議事録ほか	20
編集後記	西尾ゆかり・山地亚希	20



会長  
渡辺 一良  
(医2期生)

## 「湖都通信看護学科版」の 発刊にあたって



看護学科卒業生の皆さん、在校生の皆さん、このたび看護学科独自の同窓会情報誌「湖都通信看護学科版」が発行されることになりました。自分たちが本当に必要とする情報をこれまで以上に自由に発信したり、確認したりする手段の一つとして「湖都通信看護学科版」を活用していただければ幸いです。

これに加えて今後は、同窓会「湖医会」の中で看護学科の独自性を発揮できるよう「湖医会」の運営方針を変革していく予定です。その経緯について少しお話します。

看護学科の初代卒業生を送り出すにあたり、当時の副学長であった挟間章忠先生は「湖医会」に対し、医学科と看護学科を分け隔てることなく、できるだけ統一した形でまとめてほしい、との意向を示されました。それはチーム医療の要となるべく、入学式、卒業式、クラブ活動、図書館、食堂などあらゆる機会を通じて交流しながら学んできた訳だから、卒業してからもできるだけ共通の土台で扱ってくれれば有難

い、とのお考えからでした。

この考え方にわれわれ「湖医会」執行部も賛同して、医学科と看護学科の二つをできる限り同列に扱う

ように努めてきました。卒業生名簿は共通とし、卒後動向も同じように把握する、学生の行事や大学生活への援助・湖医会奨学金の貸与も共通に対応し、同窓会費も修学年限(6年、4年)に応じてそれぞれ年額6千円、4千円とする、などであります。

しかし在学中はともかくとして、卒後は両者のキャリア形成は同様にはいかない上に、その考え方がかなり異なることにも気がつきました。この間、看護学科の「湖医会」役員の皆さんには、「湖医会」執行部の考えと看護学科卒業生の思いの間に挟まれて、ずいぶん苦勞をかけてしまいました。

そこで看護学科卒業生にアンケートを実施するなどして意向を尋ねてもらい、その結果「湖都通信看護学科版」を発行する、また会費は終身会費制に変更するなど、看護学科としての独自色を出せるように「湖医会」の運営方針を変更することにしました。滋賀医大の看護学科あるいは医学科で共に学びそして卒業した仲間である、という緩い連帯は保ちつつ、看護学科が独自性をもって運営していく、そんな感覚です。

その表れのひとつである、看護学科のための同窓会誌「湖都通信看護学科版」を皆さんで盛り立ててほしいと願うものです。

## 同窓会の縁を大切に



副会長  
白石 知子  
(看1期生)

思い起こせば、3  
回生の時“滋賀県出身だから”  
という理由で結ばれた『同窓会』との  
縁。しかし、同窓会ってなに?から始まり、ど  
うしたらいいかわからず、医学科の同窓会の先  
生方(現在の同窓会会長・副会長)にさんざんお世話  
になりました。当時私たち看護学科1期生は、入学して  
からも看護学科の校舎は無く、看護の先生  
も少なく、その中で一般教養の勉強や試験  
対策、クラブ活動と大学のキャンパスライフは医学科のサポ  
ートがとても大きかったこともあり、同窓会活動も医学科と一緒に行  
うと決めたことを覚えています。

時が過ぎ、看護学科の同窓会を考える様になり、同窓生対象にア  
ンケートを取ったところ、「看護に有益な情報が欲しい」「看護に特化  
したものを」という意見、「会費が高い」という意見と「会費を払えない  
現状」が浮き彫りになり、会費を2万円の終身制とし同窓会活動を制  
限、看護学科に特化したものということで第1号の看護学科版創刊を  
発行する運びとなりました。この看護学科版では、同窓生の活動紹介、  
今後みなさんが歩むであろうライフサイクルを経験している体験談な  
ど、看護学科独自のおもしろい事が紹介できれば、また先輩や後輩な  
ど人のつながりも出来ればと思っております。

皆さんもこの同窓会の縁をどうか大切にしながら、いざという時  
に同窓会に頼ったり、協力をしてくれたりにより同窓会を身近に感  
じてもらえればと思っておりますので、今後ともよろしく願ひ  
します。

ここに至るまでに、同窓会の会長初め副会長や幹事の  
方々、同窓会の事務局の方々に多大なるサポートを頂  
いております、本当にありがとうございました。



# 一緒に盛り上げていきましょう

同窓会委員でもなかったはずの私が、周りの期待に応え(おだてられ?)毎年のように同窓会の幹事を担うこと、はや10数年。今やとうとう湖医会の副会長にまでなってしまいました。看護学科を卒業するとき、当時の学長に「卒業生が自分の母校を盛り上げていかんとあかんで!」と言われたのを思い出します。今でもその言葉が、私の湖医会での活動の原点となっています。

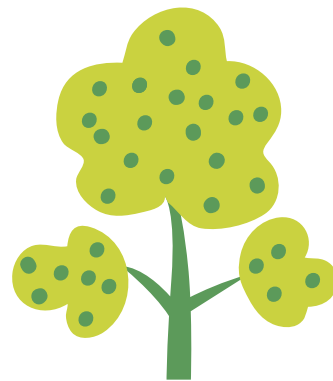
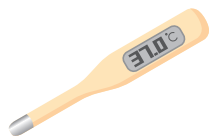
この春、看護学科も18期生が卒業されました。卒業生は1000人を超え、卒後の進路や働き方も、ライフスタイルに合わせて実に様々となってきました。そんな中、同窓会活動の看護学科に特化したものを、という声に応え、湖都通信看護学科版創刊号が発行となりました。

今回の看護学科版創刊にあたり、同じ滋賀医科大学看護学科を卒業した者同士、看護学科独自の情報を発信しお互いに有益なものにしていきたいと考えています。在宅看護や災害看護、認定や専門の資格取得など、看護師の仕事は、色々な分野で果たす役割が大きくなってきています。また看護師だけでなく、助産師や保健師、教職など、多様な働き方がある現代ですので、情報やコミュニケーションの重要性は高まっています。そこで、医学科との連携を保ちつつ、先輩後輩の現状や看護学科としての情報発信をしていきたいと考えています。復職・転職時の情報収集はもちろん、同窓会の連絡や卒業生間の交流にも役立てていただきたいと思っています。また今後は今の在学生への情報提供もしていけたらと考えています。

今回、多くの卒業生の皆さんにご協力いただき、無事に創刊することができました。継続することは、とてもエネルギーのいる作業です。ぜひ皆さんの力と知恵をお貸しいただいて、看護学科版を盛り上げていきたいと考えていますので、今後ともご協力をお願いいたします。



副会長  
山下 敬  
(看護5期生)



# 同窓会の縦横の繋がりが 皆さんに心の拠り所を



滋賀医科大学名誉教授  
今本喜久子  
(平成21年3月定年退職)



看護学科2期生  
2年生の学年担任となった春 1996.4.26



金子君の計画による湖南アルプスハイキング  
副担任の鈴木真知子先生も一緒に  
1996.12.1

この度、同窓会誌「湖都通信」の看護学科版が創刊されるに至りましたこと、おめでとうございます。

いつ頃だったでしょうか、滋賀医科大学同窓会の分離の動きが噂として耳に入り、一体何故?と驚かされました。小規模の単科大学で、入学式や卒業式の式典には両学科の学生は共に参列し、時には合同講義や看護専門教科で医学科の先生方にもお世話になり、サークル活動や若鮎祭などは協力して学生生活を充実させた仲間であったと思うのに??。しかし、「湖都通信」に看護学科版ができることで問題が解決されたようで安堵いたしました。

ご承知のように、平成26年は滋賀医科大学にとって、開学40周年、看護学科開設20周年の節目の年でした。平成6年に近隣の大学に先駆けて、本学において四年制の看護教育が始まった当初は、今思うと大変なことの連続でした。解剖生理学の教科担当者に内定してから、医学部に開設された看護学科の特徴として、エビデンスに基づくケアを実践できる看護師の育成を目指したいとの思いでサイエンス志向の授業計画を立てました。医学科の先生方のご協力を得て、医学科にある教育設備・教材備品を自由に使用させて頂きました。学生の皆さんに楽しい授業を提供できたかは別にして、学内の多くの方々にご支援を頂き感謝する14年間でした。教員間の相互理解には難しい面もありましたが、折に触れての学生との交流によって、学科内の一教員としての自覚や責任を再三認識させられた日々でもありました。

滋賀医大で合わせて34年間在職し、平成21年の3月で定年退職しましたが、この2年4か月間は、大学の男女共同参画推進室のスタッフとして仕事を与えていただき、働く女性について改めて考える機会を多く持てました。看護界は女性の多い職場ですし、働きやすい職場環境が整ってきたとは言え、結婚し子供を育てながら働くことは大変です。それでも敢えて、幸せな家庭を夫婦で力を合わせて守りながら、女性も離職しないで社会で活躍し続けて欲しいと、エールを送り続けたいと思います。

同窓の繋がりで得られる情報は、きっとお互いを刺激し合って、キャリア・アップへのモチベーションになるでしょう。年月を経ると、学生時代の思い出を共有する古い仲間が懐かしくなるかもしれません。皆さんの母校である滋賀医科大学の発展と、同窓会の縦横の繋がりが、皆さんに心の拠り所を与えてくれることを願っています。

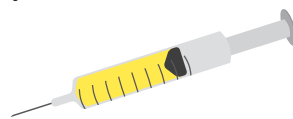
## 産業保健師になって

山下 正妃 (看1期生)

同窓会誌の寄稿依頼を頂戴し何を書いているのかかわからず、時間ばかりが過ぎてしまいました。そう言えば産業保健師をしているということでご依頼いただいた?ことを思い出し、現在の私の仕事についてご紹介したいと思います。

私は卒業してずっと保健師をしています。初めは人口1万人にも満たない田舎町で保健師をしていましたが、今は産業保健師をしています。私が今勤めているのはJR西日本の健康管理部門で、主に金沢支社の健康管理を担当し、健康診断や保健指導、職場巡視等を行っています。金沢支社は、新潟県の一部と富山県、石川県、福井県に職場が分散しており、特急列車を利用して片道2時間半、往復で5時間かかって各職場に行くこともあります。おかげで慣れない列車移動にも随分慣れました。学生の頃は自分が産業保健師になるとは想像もしていませんでしたし、こんなに頻繁に列車を利用するとも思っていませんでした。私は鉄道に興味があったわけでもないのですが、今は仕事の影響から知る機会も多く、まるで『鉄道マニア予備群』のようです。

金沢は今、3月14日に北陸新幹線開業を迎えることもあって街中が盛り上がっています。当社も開業準備に社員一丸となって取り組んでいます。私たち健康管理部門も新しく増える職場や異動してくる社員の健康支援など、これまで経験したことのないことに試行錯誤しながら、開業準備に臨んでいます。私達保健師は、直接列車運行に関わっているわけではありませんが、社員の健康支援・職場の労働衛生支援を通して列車の安全運行に携わっています。これまでの通常業務に加えての開業準備で、大変なこともあります。このような貴重な時期に社員の一人として関わられることを光栄に思います。全国でご活躍されている同窓生の皆様、ぜひ北陸新幹線が開業する金沢にお越しください。



## 住み慣れた地域で生きていくために

烏谷 康子 (看2期生)

私がはじめて静岡の地を踏んだのは、12年前。当時の訪問看護利用者は、高齢で脳卒中後遺症、家族と同居、主介護者が在宅しているというご家庭が多かったように思います。それから状況は変化し、壮年期から高年期のがん末期、認知症、一人暮らし、夫婦のみの世帯、子供は他府県在住、主介護者は仕事をしながらの介護といった疾患や家庭環境が多くなってきました。そして、進歩する医療とともにその為の治療、療養する場、生き方(逝き方)の選択も多様化してきました。

地域には病院、開業医、福祉施設、役所、薬局、消防局、事務所といった建物の中に、医師、看護師、保健師、介護福祉士、社会福祉士、薬剤師、ケアマネージャー、歯科衛生士、理学療法士、マッサージ師、美容師、栄養士などなど、あげればきりが無いほどの専門職がいます。十数年前に比べると、病院には地域連携室や相談室が完備し、退院時調整カンファレンスやサービス担当者会議を通して、専門職が互いの存在を意識し、情報共有して、同じ目的をもって関わられるようになってきました。しかし、残念ながら地域全体ではまだまだその存在を活かしきれず、個々で患者と家族



訪問先のご家族、ケアマネージャー、訪問リハビリ(PT,OT)とともに

に関わっているという状況が否めません。病院の中で謳われているチーム医療が、顔の見える連携が、お互いの存在が強く感じられる関係が地域においても必要であり、それが患者と家族のQOLの底上げの一助になると感じています。

現在静岡市では、顔の見える連携をしていこう、自分たちも将来安心して暮らせるための基盤を作って行こう、自分たちの町をホスピスにしようと、他職種間で合同の研修会や交流会を開いたり、ネットワーク作りに取り組んでいます。地域包括ケアシステムを造り上げるには時間がかかることですが、一人一人の患者と家族に向き合い、寄り添うことをから、多様化する生き方(逝き方)に対応できる地域作りにもかかわっていきたいと思っている今日この頃です。

## 看護学科の2期生 として入学して

滋賀医科大学公衆衛生看護学講座 助教  
河田 志帆(看護2期生)

「湖都通信(看護学科版)」の創刊おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私が、滋賀医科大学に看護学科2期生として入学し、看護を学び、保健師として働き、教員として保健師教育に携わるまでを少し振り返りたいと思います。

私は、大学進学を機会に滋賀県に来ました。奇しくも、大学入試センター試験の翌日に阪神淡路大震災が起き、家族をはじめ親族が関西方面に進学することに反対していました。

晴れて入学しましたが、新設学科ということで、看護学科棟もなく、高校の教室とかわらない環境での大学生活がスタートしました。自分が思い描いていた大学生大学生活とのギャップから、大学で看護を学ぶことに対し、常に自問自答する日々でした。不満ばかりをこぼし、時には全てに嫌気がさし、大学から足が遠のくこともありました。また就職先では、大学を卒業した保健師の採用が初めてということもあり、私たちの戸惑い以上に先輩保健師の方々の戸惑いが大きく、現場の期待と厳しさを感じながら新人期を過ごしました。その後周囲の人々に温かく見守られながら、滋賀県内で保健師として育てていただきました。そして、4年前より縁あって滋賀医科大学で保健師教育に関わっております。

先日、学生時代の先生とお会いする機会があり、学科設立当時の数々のエピソードを伺いました。特に、実習先での調整が難しかったとのことでした。当時は大学病院だけでなく他の医療機関にもお世話になっており、教育方針を共有することが難しかったとのことでした。当時はわからなかった先生方のご苦労が今日の看護学科の礎になっていると思います。

私事ではありますが、平成27年4月より看護学科が新設される大学に着任します。自分が入学時に経験した新設学科ならではの魅力と経験を糧に、保健師教育にまい進していきたいと思います。



国家試験勉強中の4回生のみさんと私(左から2番目)

## 卒業後を ふりかえって

酒井(辻井)理香(看護3期生)



湖都通信看護学科版創刊おめでとうございます。滋賀医大を卒業して早15年、滋賀医大病院を退職して早10年、月日の流れの早さに驚いています。現在は大阪に住んでいるため琵琶湖がとても懐かしく感じられます。

滋賀医大病院の第三内科勤務後は、ニュージーランドにワーキングホリデーに行き異国文化や大自然を満喫。その後学生時代からの念願だった訪問看護での勤務を経て今はリハビリ特化型デイサービスの看護師として働いています。

訪問看護では1人の利用者様にみっちり向き合う毎日感動ややりがいを感じましたが、年々在宅に帰ってこられる方の重症化と看護師に求められるものが大きくなっていくのが感じられ、また難病患者様やターミナルの患者様だけでなくもっと元気になっていかれる方を見たいとの思いでデイサービスに転職しました。

今働いているデイサービスは利用者様の年齢は50歳代~90歳代と幅広く、リハビリに対してとても積極的な方が多いです。コツコツ継続して行うリハビリにより麻痺のある手足が動くようになったり、車椅子からの移乗がスムーズになったことをご本人様や他の利用者様と一緒に喜びながら支援していけるこの仕事はとてもやりがいを感じます。また、来られている利用者様は年齢を重ねても積極的に人生を楽しまれている方が多く、人生の先輩として教わることも多い毎日です。

今まで病院・在宅・デイサービスといろんな場所で看護師として働いてきましたが、看護は奥が深く、まだまだこれからも日々勉強していきたいと思っています。

最後に湖都通信創刊にあたりまして、会長の渡辺様、編集委員長の西尾様、ご尽力ありがとうございました。湖医会のますますの発展をお祈り申し上げます。

## 卒業して10数年、今考えること



井手 敬昭  
(看6期生)

看護学科6期生の井手と申します。1999年、平成11年に滋賀医科大学医学部看護学科に入学しました。私が入学した学年は(と言っても、私の前後の学年も同じでしたが)1学年60名中男子学生は1名でした。紅一点ではなく、黒一点(?)であり、選びやすいのか、何もできない出来の悪い学生だったからか、何かにつけて役割を押しつけ…、もとい、役割を割り当てていただいていた。卒業後も何かとこういう文章を書くようなことがあると、依頼をいただいています。当時からやや被害妄想チックに考えるようになってしまい、ひねくれてしまったようです(笑)。

現在私は、滋賀医科大学附属病院の精神科病棟で勤務しています。副看護師長の役職を拝命し、とても嫌なのですがスタッフに小言を言う役を引き受けています。

2年前には看護協会の研修で、学生時代に大変お世話になった豊田久美子先生の講義を受ける機会をいただきました。「看護とは何か?」「看護理論とは?」学生当時の授業を思い出しながら、懐かしく先生の講義を受けていました。ちょっと笑いを取り入れた、あの頃の授業と同じような進行で10数年ぶりに学生に戻ったような印象でした。

その講義の中で、「看護の専門性とは?専門職としての看護とは?」という問いかけにとっても興味を持ちました。卒

業して10数年が経ち、看護師として10年前後の経験を積み、色々な役割を割り当てられている年代となっています。結婚や子育てなどの人生の経験も重ねて



きました。そんな中で看護師として、何を大事にするのか、何を求めて看護していくのか、専門職業人としての看護師の役割はなにか、ということ改めて考えることができる機会となりました。学生時代に考えていたものとはちよつと違う、大人な看護師像がちよつと見えたのかなと思います。今後また、色々な経験を積んで今とは違う看護師像を考えていきたいと思っています。

とは言うものの、やっぱり仕事はしんどい。体力的にも精神的にも。私だけかもしれませんが、先輩方には怒られるかもしれませんが、30歳を過ぎた頃から夜勤の後の脱力感が半端ないです。20代は夜勤明けで遊びに行っていたのに、今ではとても“ムーリー”(by妖怪ウォッチ)です。私自身も体調を崩して仕事をお休みしたこともあるので、体を大事にしなが、仕事に、看護師に、夫・父親業に励んでいきたいと思っています。

## 憧れの養護教諭

卒業後10年の同窓会で、恩師の先生方、なかなか会えない旧友と再会し、懐かしい話をしてから、早くも数年が経ち時が過ぎる早さを実感しています。

私は、卒業後、養護教諭特別科に進み1年間、金沢での一人暮らしを経験した後、京都市の養護教諭として働いています。現在は小学校の保健室で、280人の子どもたちの笑顔に囲まれて楽しい毎日を過ごしています。

『そばにいてだけで、勇気が出たり、元気が出たりするような、子どもたちの支えになれる存在になりたい』と小学校の時から憧れていた養護教諭になれたことを幸せに感じています。

「保健室は落ち着くわあ。」「先生が背中を押してくれた。」などの言葉を聞いたり、泣きながら来た子が笑顔で戻って行ったりした時に、本当に養護教諭になってよかったなと思います。

学校で子どもたちと関わるだけではなく、小学校保健研究会で活動し保健指導などについて学んだり、喘息に罹患している子どもたちが宿泊学習を通して喘息についてや対

犬井 景子 (看6期生)



処方法を学習していく行事に参加したりもしています。

子どもたちは、目を輝かせながら、一生懸命に毎日を過ごして、さまざまなことを全身で吸収していきます。その姿に私の方が元気をもらうこともたくさんあります。

私は、子どもたちに「自分の心とからだ・いのちを大切にしてほしい。それと同じくらい周りの人の心とからだ・いのちを大切にできるようになってほしい。」といつも願っています。滋賀医科大学看護学科で学んだからこそその想いや願いを、子どもたちに伝えていきたいと考えています。

これからも、子どもたちと共に日々成長していきたいと思っています。





# 育児と仕事を通して

滋賀医科大学医学部附属病院 MFICU病棟  
土川 祥(看6期生)

私は平成15年3月に滋賀医科大学を卒業後、当時は医大に助産課程がなかったため、1年間専攻科で助産学を学び、平成16年4月から滋賀医科大学医学部附属病院で助産師として勤務しています。勤続5年目に修士課程に入学し、勤務しながら看護研究について学びました。今は3歳の娘がいるため、育児部分休業を利用しながら病棟勤務をしています。

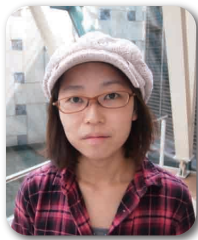
業務内容としては、病棟での分娩介助や部屋もちだけでなく学生指導や看護研究に携わったり、外来応援や月に2回程度の夜勤を行っています。実際に自分が出産して子どもと生活していることで、妊産褥婦さんへの関わり方や先輩や学生に対する関わり方が以前とは変化していると感じています。



自分自身の妊娠・出産では、今まで患者さんに伝えていたことを実際に自分が実行することが本当に楽しく、とても充実した時間を過ごせました。陣痛もはじめての授乳も乳房マッサージもお産のながれや乳房の変化について予測できるからか、しんどいというよりも面白いと思えました。その経験を経たことで、一人でも多くの妊産褥婦さんが心身ともに前向きに過ごしてもらえるようにケアをしていきたいと、より強く思うようになりました。

また、新人教育や学生指導する際にも、ささいなことでもできたことを認めようとする気持ちが生まれています。育児をする中で子どもに対して「できない」ことよりも「できた」こと「頑張っている」ことを見るようになりました。その姿勢が新人や学生に対しても活かされていると自分では感じています。常に気持ちに余裕があるわけではないですが、一人ひとりの頑張りに対して応えたいと思いますし、それぞれが看護の楽しさを感じてもらえるように寄り添えればと思えるようになりました。

夜勤をしていると「お母さん、お仕事いかんという」「お母さんいなくて、夜に泣いちゃった」などと言われると、胸がしめつけられることもありますし、そばにいて子どもの成長していく部分をずっと見ていたいと思うことももちろんあります。でも、職場での研修内容が育児につながることもあり、逆に子どもとの生活が仕事に活かしていると、今回自分のことを書く機会をいただいて思うことができました。これからも仕事と育児を楽しみながら頑張っていきたいです。



# 近況報告

戸田(田島) さやか(看6期生)

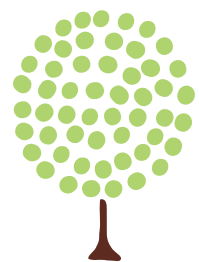
大学を卒業してもう12年になり、月日の流れる早さに驚いています。

卒業後、地元熊本で市町村保健師として5年程働きました。結婚を機に退職し、京都に半年、千葉で2年間を過ごしました。長女を妊娠中に東日本大震災を経験し、一時熊本に避難するなど色々大変なこともありましたが、2年前から滋賀に住んでいます。大学に近いところに住まいがあり、学生時代を過ごした地に再び住むことに、何だか不思議な感じがしています。

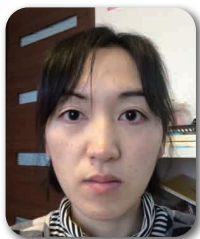
今は5歳の長男、3歳の長女、0歳の次男と3人の子育て真っ只中。大学時代、友人たちに将来はママチャリに子供を乗せて漕いでいるような肝っ玉母ちゃんになっていそうと言われました。抱っこひもに次男、カートに長女を乗せ、長男を連れて買い物をしていた時に、エレベーターで一緒になった年配のご婦人に「大変ねえー!」と言われると、友人たちに言われていたことを思い出します。

そんな子育てに追われる日々を送っていますが、いずれ子供たちが成長したら、また復職したいと漠然と考えています。ただ、両実家とも遠方で、なかなかサポートを受けづらく、フルタイムでは難しいかもしれません。保健師経験は主に健診業務や家庭訪問だったけれど、どういう形で復職できるかと不安に感じています。もともと石橋を渡る前に叩き割ってしまう性格なので、あまりあれこれ考えずに、動き出してみたいと思います。

結婚して出産し、子育てをする中で、家族はもちろん、友人や周りの人に支えられて、頼りながら子育てできていると感じることがたくさんあります。今はまだまだ甘えてばかりですが、そうできる事に感謝し、忙しい日々の中でも丁寧に過ごしていきたいと思っています。(と書きながら、隣で子供たちが暴れているのでガミガミ言ってしまうのですが……笑)



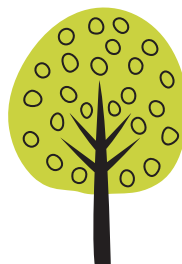
## 助産師として



平川まり子  
(看6期生)

現在、滋賀県済生会病院6階東病棟で働いています。病棟は産婦人科、小児科、未熟児室があります。未熟児室が同じ病棟のため赤ちゃんの状態が悪く母子分離になってしまっても医師や看護師間での連携もとりやすく、褥婦さんへ赤ちゃんの情報がタイムリーにできることが利点です。また、スタッフとしては状態が悪い赤ちゃんも観ることができたり、乳幼児期の子供も観ることができるため、産褥期の指導や退院後の生活での指導に役に立つことがあります。

助産師として助産師外来、分娩介助や褥婦さんのお世話を主にさせてもらっています。助産師外来では妊娠をきっかけに自分の身体に目を向けてもらいより良い生活習慣になっていくよう働きかけています。それが安産につながっていくのではと思い指導を行っています。分娩では、新人さんのフォローなどが多く私自身が直接関わることは少ないですが、産婦さんとその家族が満足できるようなお産になるようにこころがけながら支援をしています。赤ちゃんが生まれた時はいつも、母子ともに元気であることに



安堵するとともに生命の神秘に感動させられます。産褥期は赤ちゃんの可愛さに癒されながら、沐浴や状態の観察を行っています。褥婦さんには退院後の生活にできるだけ困らないよう考えながら指導をしています。

私自身、夫、7歳、5歳、1歳になる子供との5人暮らしです。昨年12月に産休から復帰したばかりで、新人のころのような緊張感を持って仕事を行っています。産休中にかわったシステムやマニュアルに日々右往左往しています。そして毎日バタバタしながら家事、育児に取り組んでいます。夫子供達の協力はもちろんのこと病棟のスタッフにも定時に帰れるよう配慮をしてもらっています。そのおかげで今、仕事と育児の両立ができていると思います。多くの人の支援に「ありがとう」の気持ちを忘れずにこれからも助産師として多くの妊婦さん褥婦さんを支えていけたらいいなと思います。また、母親としても子供達が素敵な大人になれるよう見守っていったらいいなと思います。

## ターニングポイント



嶋田 安希  
(看13期生)

滋賀医科大学を卒業して5年が経ちました。今回、記念すべき創刊号で2つもの記事に執筆の機会をいただき、誠に僭越ではありますが感謝の気持ちも込めて近況など報告させていただければと思います。

私が看護師になりたいと思ったのは幼稚園の頃でした。昨年、部屋の掃除中に出てきた幼稚園の卒園アルバム。言わば私の看護師人生の原点です。

念願叶って看護師となり、大津赤十字病院の救急部(集中治療室・救急外来)で勤務して気付けば5年。怖いもの知らずで飛び込んだ救急の世界。看護師1年目に社会の厳しさ、2年目に自分の甘さ・弱さを痛感しました。3年目は自分のキャパシティーと向き合い戦う日々、4年目は挑戦・変化の1年でした。5年目では多くのチャンスをいただき自分の可能性が広がったような気がします。現在も自分の力量・度量・器量はまだまだと思い知らされるのがしばしば。その反面いつの間にか、ついていく側から引っ張っていく側へ、指導してもらって側から指導する側へ立場が変わり、戸惑うことが多くあります。不安や迷いだらけですが新たな面白さ・やりがいも発見できています。任せていただく業務が増えていく中で、自分はしっかりと“看護”できているのか、自問自答の毎日です。

5年という一区切りの期間を経て、人生の1つのターニングポイントに差し掛かっているような気がしています。看護師として、1人の人間として、これから先自分はどう在りたいかということに思いを馳せることが多くなりました。沢山悩

## 手術室の看護



宮崎 真衣 (看17期生) [前列中央]

私は看護学科17期生として卒業し、4月から滋賀医科大学附属病院の手術室で働いています。手術室看護師の役割は主に器械出しと外回りに分かれています。器械出しは、手術で使用する医療器具を準備し、適切なタイミングで医師に手渡す役割のことです。医師に言われたものをただ渡すだけでなく、手術の流れを先読みして道具を準備し、膨大な数の器械を使いわけできなくてはなりません。そのためには各器械や解剖の知識、手術ごとの術式の流れなど、勉強しなくてはならないことが山ほどあります。器械出しはこのような特殊なスキルが必要な役割です。一方、外回りは手術中のコーディネーターの役割が必要だといわれています。なぜなら手術の進行度を確認しつつ、患者さんや麻酔の状

態といった手術室全体を把握しておく必要があるからです。具体的には、麻酔の介助や手術中に必要な機器の準備、麻酔がかかった患者さんの代弁者となって看護介入を行います。そのために幅広い視野と高いスキルが外回りには要求されます。他にも手術を控えた患者さんを訪問する術前訪問があります。手術室に入室してどんなことをするか、どんな状態で目が覚めるのか、疑問を解消し、患者さんの不安を少しでも取り除くように努めています。

手術室看護師は、病棟とは異なる手術室という特殊な環境で働き、看護というよりは手術のサポートを行っているというのが、私の学生時代のイメージでした。しかし、手術室にも看護は存在し、しっかり看護計画を作成し看護を実施していることを知りました。手術で麻酔下にある患者さんは、動くことはできません。長時間同じ姿勢でいるために発生しうる褥瘡や神経麻痺や深部静脈血栓症の予防、体温調整など手術中にも様々な看護問題があります。そのために看護計画を立案し実施、術後には評価を行い、手術室でも看護過程を展開しているのです。

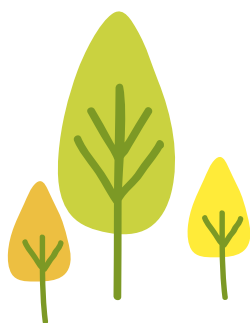
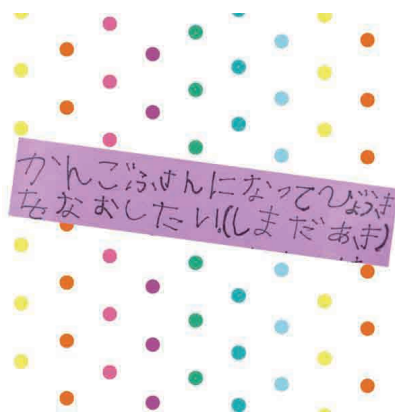
患者さんにとって手術は人生の中の大きなイベントです。その大きなイベントに立ち会う看護師として、少しでも力になれるように頑張っていきたいと思えます。



んで、時には何も考えずに一步を踏み出せたらと思います。

…と真面目に書いて参りましたが、私生活もそれなりに楽しんでおります。友達と他愛のない話や時には深い話をしながら美味しいものを食べたり、ジムで体幹を鍛えたり(最近はやっています)、好きなアーティストのライブに行ったりすることが大切な気分転換の時間です。

最後になりましたが滋賀医科大学の更なる発展、同窓生の皆様の更なるご活躍を願いながら(私も頑張ります)、結びとさせていただきます。



## 「有朋自遠方来、 不亦樂乎。」



寶來 徳子  
(看8期生)



ご存知のとおり、論語の一文です。日曜8時にテレビとネットをしながら原稿を書き始めたため、影響されてしまいました。同じ志を持って大学に入学し共に学んだ友人が、卒業して10年の時を経て集まりました。同窓生27名が参加し、恩師の先生が3名お越しく下さいました。まさに「なんとうれしいことではないか!」です。

同窓生の近況を聞きまず感じたのは、同じ志をもって大学に入学し、看護を一緒に学んだけれど、これほど違う道があるんだなあ、全ての道それぞれに素敵だなあ、輝いてるなあということです。仕事の継続、転職、進学、結婚、子育て。人生の選択肢がこれだけたくさんあり、まだこれからも可能性はたくさんあることを感じました。また、恩師の先生方のお話をお聞きし、とてもよい刺激を受けました。「すごいな」「うらやましいな」という嫉妬にも似た感情とともに、「がんばらないと!」という前向きな気持ちになりました。今回の同期会で感じた素敵な感情と欲望を忘れず、もっと成長していきたいと感じました。このような気持ちになり、楽しい時間を過ごせたこともまた、「なんとうれしいことではないか!」です。

最後に、同期会開催にあたり、ご支援ご協力いただいた湖医会事務局の方々にお礼申し上げます。

## 卒後10年の年月と今

2015年1月31日、ホテルグランヴィア京都2階、ル・タンの落ち着いた雰囲気の中で、看護学科8期生の卒後10年会が開催されました。

当日は寶來徳子さんが司会をされ、会の準備に向けては、山口(福満)舞子さんも幹事をして下さいました(残念ながら、山口さんは当日出席できませんでした)。29名の同窓生が「お久しぶり」と会い見え、お母様方がお連れになった、とても可愛い乳幼児の方達や、もうすぐ幼稚園や学校というお嬢さん、坊やちゃんも多数おられ、いつの間にか楽しく賑やかな会となり旧交を暖め、そして、次々と御馳走が運ばれ、皆さん寛げた様子でした。

教員は榎木野裕美大阪府立大学教授と任和子京都大学大学院人間健康科学系教授そして、10年前に定年退職して現在、本学客員教授として滋賀医大に関係させて頂いている徳川の3名が参加いたしました。榎木野教授、任教授はご周知のように看護界の重鎮として、ご活躍中であり、徳川は8期生の皆さん方に、次のように話しました。

「私は看護職で50年働いてきましたが、私にとって職業としての看護の魅力は今も尽きず、現在津市に住んで、社会福祉の立場から訪問看護の研究に興味を持って



滋賀医科大学看護学科客員教授  
徳川早知子

取り組んでおります」と。

8期生の方々、現在病院で働いておられる人、保健師、助産師、養護教諭そして、在宅看護に携わっている人、また、看護職として経験を積んだ後、修士課程や博士課程を終えられ、看護教員としてご活躍中の方もありません。育児直中で機会があれば、再び職場へと再就職を考えておられる人など、皆さんご家族と健康に恵まれ、頼もしい限りです。本日出席したくても出来なかった人も、ぎりぎりまで勤務予定表を眺めつつ、欠席された人もあったと伺っています。

同窓生の皆様方が益々ご発展されますように。時には、図書の利用や、講演会、そして研究の相談に、母校へ来られてはいかがでしょうか。滋賀医科大学看護学科同窓生の皆様、お元気で。今日は本当にありがとうございました。

## 卒業5年同期会に参加して

平成26年11月8日、看護学科13期生の卒業5年同期会を開催させていただきました。

13期生15名とお子さん1名の参加となり、和やかで大変楽しい会になりました。嶋田安希さんの乾杯の発声に始まり、堅苦しい近況報告のスピーチは省略して、思い思いにおしゃべりを楽しみました。卒業以来5年ぶりに顔を合わせるメンバーもいましたが、皆風貌はほとんど変わっておらず、学生の頃に戻った様に感じました。今回の出席者は全員が女性で、中堅看護師として病院に勤務している人、結婚や出産を機に働き方を変えた人、育休中の人等、近況は様々でした。それぞれ環境は違っても、女性のライフサイクルに合わせて、皆が職場や家庭で頑張っていることを知り、私自身も良い刺激を受け、本当に楽しい時間を過ごすことができました。久しぶりの再会で話は尽きず、お開きの時間が近づくと本当に名残惜しく感じました。今回の同期会を通して感じたことは、卒業後5年経っても、13期生の個性豊かで大らかな雰囲気は健在だなということです。今後も、一緒に看護を学んだ仲間として、いつまでも良き友人でありたいと思いました。

同期の皆さん、次回卒業10年同期会でもお会いできるのを楽しみにしています。今回残念ながら出席できなかった方も、次回は是非とも出席していただきたいと思います。

最後になりましたが、湖医会事務局の皆様、同期会の開催にあたり大変お世話になりありがとうございました。

2014年11月8日、よく会っている人から卒業式ぶりの人まで15人が集まり、楽しい時間を過ごしました。卒業してから4年半ほど経って、皆どんな風になっているだろうとドキドキしながら当日を迎えました。少し大人っぽくなっているけれど変わらない顔ぶれに、学生時代を思い出して懐かしくほっとした気持ちになりました。

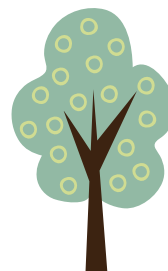
食べきれないほどたくさんの海の幸・山の幸を頬張りながら、互いの近況報告、学生の頃の思い出話、時には真面目に仕事の話などに花を咲かせ、あっという間に時間は過ぎました。日々やらなければならないことに追われる日常から少し離れてタイムスリップしたような不思議な気持ちになりました。一方で卒業して社会に出て5年目、変わらず働き続けている人、職場を変えている人、結婚している人、出産を控えていたり育児中であったり…それぞれ歩



む道は変わってきているのだなと実感しました。仲間たちから良い刺激をもらって、次に集まれる機会には素敵な30代を過ごせているように日々励もうと思います。



大西(響庭) 愛美  
(看13期生)



嶋田 安希  
(看13期生)



# 看護学科

# 懇談会



看護学科交流懇談会に参加して

## 人生は一度きり 後悔のない生き方を



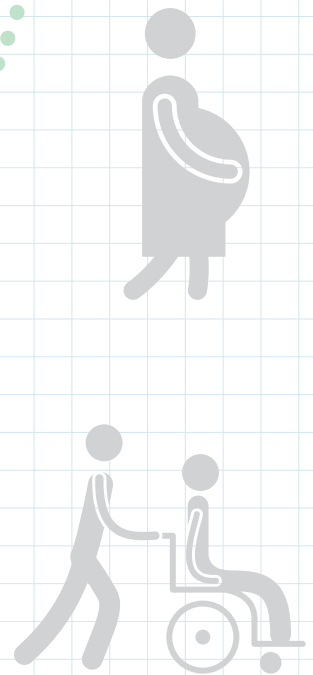
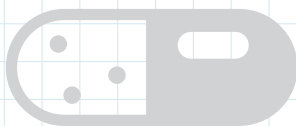
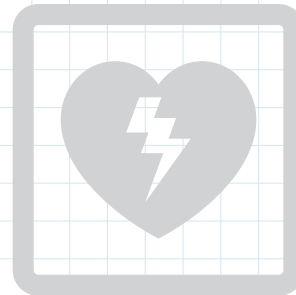
聖路加国際病院 看護師  
中込 昌幸  
(看11期生)

看護学科交流懇談会に参加させていただき誠にありがとうございました。

私は卒業後すぐ聖路加国際病院で常勤看護師として透析、放射線科と5年働き、現在卒後7年目、副業として非常勤で訪問看護師として働いており、本業は舞台役者をしています。

特殊分野での看護師としての経験、また常勤看護師を辞め全く異なるところからの視点を持っているところから、学生さんの役に立つような意見を少しは出せるかな。と思っておりましたが、逆に新人として働く前はみんなこんな考えを持って就職するんだよな等と希望にあふれる皆さんの様子を見てはっとすることの連続でした。

僕自身この交流懇談会で様々な発見があり、非常に有意義な時間となりました。学生の皆さんにも僕の経験を伝えたことで今後よりよい人生に歩むお手伝いが少しでもできていれば幸いです。



# 交流

## 第14回



長浜赤十字病院 産婦人科所属  
田村 明音  
(看16期生)

今回、看護学科交流懇談会に参加させていただき、改めて自分の原点を振り返ると共に、今後の仕事への活力をいただきました。

私はまだ新卒一年目で、学生の皆さんと立場が近かったこともあり、交流会を通して当時の自分の思いや悩みが鮮明に思い出されました。助産師になることを夢見て、必死で悩んでもがいた学生時代。あの頃憧れた助産師として働いているのに、そんな感謝や初心を忘れかけていたことに気がきました。また、他の分野で活躍されている先輩方と交流することで、今後の自分の道を充実させる糧を得ることが出来ました。

学生の皆さんは、これからの自分の将来に不安もあると思います。ですが、そうして自分と向き合っていくうちに、自然と道は見えてきます。そして、いつか私と同じように懐かしく思える日が必ず来るので、今を一生懸命頑張ってください。

最後になりましたが、このような素敵な会を開いて下さった関係者の方々に、心より御礼申し上げます。

## 看護学科交流懇談会を終えて

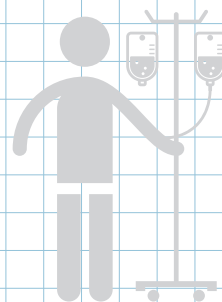
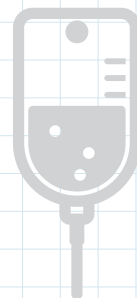
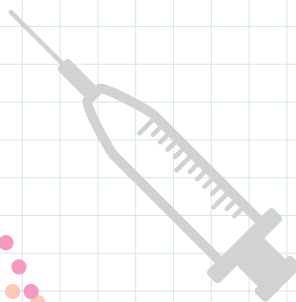
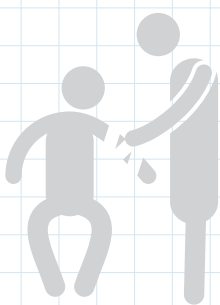


第14回実行委員長  
伊藤 安那  
(看護学科4年)

交流懇談会には、看護師や保健師、助産師というような様々な職種の卒業生が参加して下さいました。卒業生のみなさまの講演では、看護3回生を対象とした事前アンケートの結果に沿って、自らの経験を交えながらわかりやすく質問に答えて下さいました。また、先輩看護師、保健師としての後輩へのアドバイスも多くいただき、これからの励みとなりました。

茶話会では、参加者全員で軽食をいただきながら普段聞けない話を、気軽に聞くことができました。また質問しやすい雰囲気であったため、会話が弾み、将来活躍する場について考えることができました。仕事で困った時には、大学で出会った仲間の存在が大きく、お互い支え合っているという話を聞き、私たちも大学での友達との関わりを大事にしていかなければならないと思いました。

お忙しい中交流会に参加して下さいました卒業生の方々、協力して下さいました先生方、「湖医会」の方々のおかげでとても有意義な会となりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



# 「湖医会」 滋賀支部 発足

会長 渡辺 一良 (医2期生)



昨年8月、「湖医会」に滋賀支部が発足しました。

「湖医会」では会の創立30周年(2011年)記念事業の一環として、支部の設立を目標のひとつに掲げ、各地に草の根発生的に支部会が設立されるように取り組んできました。すなわち、本学を卒業して地元に戻った先輩が中心となり、これを取り巻くように会員が集まり、地域の中で自然発生的に立ち上がるようにというものです。

その結果、歴史ある関東支部会に続いて鹿児島、大阪、奈良の各支部が設立されました。地元会員の懇親、情報交換、そして卒業生のUターン時の相談にのるなど、貴重な活動をしていただいております。

さて、地元滋賀県ではというと、母校おひざ元の所以か滋賀支部が必要だという機運は盛り上がりませんでした。

しかし、昨今の情勢に目をやりますと、全卒業生約4500名の1/3にあたる1,484名は滋賀県内にあって、しかも県内医療機関の重要なポストに多数従事するようになってきており、その傾向は今後ますます強まるはずであります。ならば県内にいる同窓生の縦横の連携を密にし、貴重な情報を得やすい環境を整えることは非常に有効かつ大切なはずで

このような気運の中、昨春には学長選が行われて母校の執行部体制が一新されました。新執行部発足に伴い同窓会との協力・連携も期待されます。新しい学長や病





院長の将来構想について聞いてみたいという声も多くありました。そのような流れで「湖医会」滋賀支部の設立を準備しようという声が大きくなってきました。

この声を受け8月30日、草津ボストンプラザホテルにおいて、総勢50余名の参加のもと、滋賀支部の設立準備会が開催されました。その場には昨春新たに就任された塩田学長、そして松末病院長をお招きして、今後の運営方針や構想を語っていただき、さらに会員との率直な意見交換なども行われました。

その後今回の集まりを機に滋賀支部を設立してはどうか、という発議が出され、出席者に諮ったところ満場一致で設立が決定された次第です。

自薦他薦などの結果、今後、中心となって動いていただくメンバーが以下のように決まりました。代表には前川聡(内科学講座教授、医1期生)、役員には井上修平(東近江総合医療センター病院長、医3期生)、野々村和男(守山市民病院長、医4期生)、木築野百合(医院理事長、医5期生)、看護学科より山下敬(大津赤十字病院看護師、看5期生)の各氏が選出されました。

今後滋賀支部会の活動方針やその内容について詰めていくことになっていますが、いずれの役員もみな超多忙、重責を担っておられ、一堂に会することすらままならないというのが実情であります。

滋賀県に在住、または勤務する「湖医会」会員は自動的に滋賀支部会員となります。会員の皆様から要望や意見をお寄せいただき、役員の方を後押ししながら、新たに発足した滋賀支部会を育てていただけるようお願いする次第です。

### 滋賀医大卒業生の動向 (2014.7.1現在)

#### 1. 全卒業生数

医学科	3,304
看護学科	1,168
計	4,472

#### 2. 医学科

滋賀県内	1,155	(内訳)	本学	399
他県	1,841		本学以外	549
海外	27		開業	197
不明	253		その他	10
物故	28		計	1,155
計	3,304			

#### 3. 看護学科

滋賀県内	329	(内訳)	本学	207
他県	380		本学以外	122
海外	2		計	329
不明	455			
物故	2			
計	1,168			



# 新役員決まる

平成26年10月25日(土)に開催の「湖医会」総会において次の役員が選出されました。任期は、平成26年11月1日～平成29年10月31日の3年間です。

会長 ● 渡辺 一良 (医2期)

副会長 ● 蔦本 尚慶 (医2期)

中島 滋美 (医2期)

永田 啓 (医2期)

相見 良成 (医5期)

金子 均 (医7期)

茶野 徳宏 (医10期)

白石 知子 (看1期)

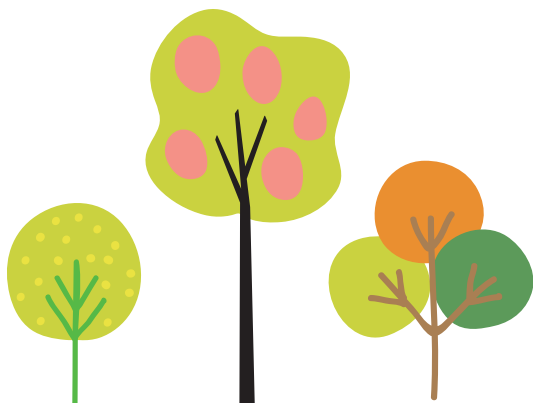
山下 敬 (看5期)

監査役 ● 来見 良誠 (医1期)

向所 賢一 (医14期)

## 幹事

(医1期) 笹原 正清/佐藤 功/高橋 正行/藤宮 峯子  
 (医2期) 加藤正二郎/野村 哲哉  
 (医3期) 阿部 元/埜田 和史/高橋 雅士/若林 賢彦  
 (医4期) 石澤 命仁/古家 大祐/高田 政彦  
 (医5期) 市川 正春/小川 勉/駒井 理/庭川 光行  
 (医6期) 九嶋 亮治/黒川 清/竹下 和良/藤田 泰之/山出 一郎  
 (医7期) 西村 明儒/山本 育男  
 (医8期) 乾 武広/内田 康和/牧浦弥恵子  
 (医9期) 野口 俊文  
 (医10期) 糸島 崇博/松下 亮二  
 (医11期) 石川 弘伸/福留 寿生  
 (医12期) 一色 啓二/高瀬 年人/千野 佳秀/浜中 恭代/濱辺 方子  
 (医13期) 尾関 祐二/林 寛子/前田 清澄  
 (医14期) 池原 譲/門脇 崇/佐々木靖之  
 (医15期) 小森 英寛/真田 充  
 (医16期) 河端 秀明/黄瀬 一慶/吉川 浩平  
 (医17期) 坂口 知子/四方 寛子  
 (医18期) 津川 拓也/山根 哲信  
 (医19期) 北村 将司/竹村しづき/松井 克之  
 (医20期) 園田 文乃/竹林 紀子/早藤 清行/三村 朋大  
 (医21期) 伊藤 岳/桐ヶ谷大淳/望月 昭彦  
 (医22期) 齋藤 実/山川 勇  
 (医23期) 小出 正洋/嶋 綾子  
 (医24期) 栗本 直樹/佐野 剛視/寺村 真範  
 (医25期) 安田 真子/龍神 慶  
 (医26期) 文 一恵  
 (医27期) 青木 信也/井上 明星/瀬戸瑠里子  
 (医28期) 宮田 悠/森田 幸弘/八木 典章  
 (医29期) 小野 麻友/田中 克典/松井 潤  
 (医30期) 浅利 建吾/眞田 陸/花田 哲郎  
 (医31期) 大熊 優子/笠原 真吾/角埜紗智子/森田 康大  
 (医32期) 近藤 享史/阪下 暁/三宅優一郎/村田 雅樹  
 (医33期) 下前真衣子/田中 智基/西岡 咲輝  
 (医34期) 秋山 亮/池川 貴子/織邊 圭太  
 (看1期) 上野さおり/本多 綾子  
 (看2期) 上間 美穂/西田 佳菜/和田 明紀/山中由香里  
 (看3期) 亀田 諭可/児嶋すなを  
 (看4期) 井上 直子/濱田 梢/三宅 景子/望月 鑑恵  
 (看5期) 谷 智子/福家 妙子  
 (看6期) 赤澤 仁美/川越のぞみ/矢野美恵子  
 (看7期) 小林 愛/酒井 浩子  
 (看8期) 野上 朋子  
 (看9期) 宇佐美亮子/平岡 悠里  
 (看10期) 田村沙緒理  
 (看11期) 北川 涼子/中込 昌幸  
 (看12期) 赤澤 有紀/藤居 弥生  
 (看13期) 大西 愛美/狭川恵理翔/嶋田 安希  
 (看14期) 平岡 祥子/藤岡 礼  
 (看15期) 磯谷 依子/今宮 未来/篠原 佐和/角川 愛理  
 (看16期) 市川 瑞希/内山 真奈/小幡 允里/佐藤 貴代  
 (看17期) (未定)  
 (期外) 今村 武史(医7期)/田中 裕之(医16期)  
 西尾ゆかり(看2期)/山地 亜希(看6期)



# 「湖医会」会長就任にあたり



会長 渡辺 一良 (医2期生)

昨年10月若鮎際の最中、「湖医会」では湖医会賞の授与式・記念講演会に続いて、「湖医会」の総会を開催しました。今年には役員改選の年で選挙が行われた結果、再び会長に選出されましたので、最近の「湖医会」の動きから3点ほど報告します。

●筆頭に掲げたいのは、「湖医会」滋賀支部が創設されたことです。全卒業生の約1/3にあたる1400名強は滋賀県内で働いており、続々と重要ポストに就くようになってきました。この流れは今後ますます強まるでしょう。そこで滋賀支部を設立して、県内にいる同窓生の縦横の連携を密にしようではないかという機運が盛り上がりました。

支部が立ち上がったことによるメリットはたくさんありますが、「湖医会」の意思決定の支えになりうると期待しています。これまで「湖医会」から会員の皆さんに意見を求めたり尋ねたりしても反応が乏しく、ひどいときにはなしのつぶて、という状況でした。忙しい盛りでしたからね。これでは「湖医会」としての意思決定を下せません。でもこれからは会員全体に加えて、滋賀支部を相談相手として運営しているようになるのではないかと期待しております。

●大学の執行部体制が一新。昨春には学長選が行われて塩田学長のもと執行部体制が一新されました。また開学40周年を区切りに新たなプロジェクトも計画されているよ

うですので、大学との連携を密にしてお互いのためになるよう協力していきたいと考えています。

●看護学科同窓会の扱いに独自色を出していきます。

これまでは、医学科と看護学科の同窓会をできるだけ同じように扱う方針で運営してきました。しかし在学中はともかく、卒後は両科のキャリア形成は同様にはいかない上にその考え方も異なります。そこで方針を少し変更して、看護学科の独自色を出すことにしました。例えば看護学科独自の情報誌として「湖都通信看護学科版」を発行し、会費を卒業時払いの終身会費制に変更するなどです。この方針変更は、滋賀医大の医学科あるいは看護学科で共に学び、卒業した仲間である、という緩い連帯は保ちつつ、看護学科同窓会がその独自性も発揮できるようにすることを目指したものです。

優秀な経営者は後進を育てることに熱心であると言われる。今後数年しますと卒業生の中に時間的にも精神的にもややゆったりして、少しは同窓会や後輩にも目を向ける余裕ができたという方も出てくることでしょう。そういう方々のお力添えも得て、少しずつ大人の同窓会に変身していければと念じているところです。

これまで以上に会員の皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

# 訃報

謹んで哀悼の意を表します。

平成26年3月21日 寺澤 祐介(看4期生)

平成26年6月1日 日下 莊一(医22期生)

## 事務局から

### 2014年度「湖医会」総会 議事録

日時／平成26年10月25日(土) 15:00~16:10

場所／基礎実習棟B講義室

#### 審議事項

- ① '13事業報告及び'13決算について  
○原案(資料1-1、1-2)どおり承認された。
- ② '14事業計画及び'14予算について  
○原案(資料2-1、2-2)どおり承認された。
- ③ 役員改選について  
○会長については、立候補のあった渡辺一良氏(医2期)が全会一致で信任され選出された。  
○副会長については、立候補のあった次の8名全員が全会一致で信任され選出された。  
中島滋美(医2期)、永田 啓(医2期)、薦本尚慶(医2期)、相見良成(医5期)  
金子 均(医7期)、茶野徳宏(医10期)、白石知子(看1期)、山下 敬(看5期)  
○幹事、監査役については、幹事会から提案のあった名簿(資料3)のとおり承認された。
- ④ その他  
○滋賀支部の設置について  
滋賀県内に勤務又は在住する会員を構成員とする「滋賀支部」の設置が幹事会で承認された旨の報告があった。

※各資料は「湖医会」HPを参照

### 看護学科 終身会費制の導入(2014年度から)

終身会費は20,000円!

これまでに20,000円以上を納入されている方は、終身会員となっています。  
20,000円に満たない方はその差額を納入された時点で終身会員となります。  
終身会員でない、広報誌や卒後5年・10年・20年の同期会の案内などをお届けできないこととなります。詳しくは、湖医会事務局までお問い合わせください。

### 平成26年版

## 「湖医会」会員名簿 刊行!

(A4版に改訂)

名簿作成にあたり、多くの会員のみなさまから異動の情報を

お寄せいただきましたことに感謝申し上げます。

会員名簿は会費納入者にお送ります。

会員名簿ご希望の方は、「湖医会」事務局までお問い合わせください。

お名前・住所・勤務先・メールアドレス等を変更の場合は、メールまたはファクスで事務局まですぐにご連絡ください。

## 編集後記

お忙しい中、執筆くださった卒業生のみなさま、また急な依頼にも関わらずご快諾くださいました今本先生に心より感謝申し上げます。

1998年に1期生が卒業して以来16年が経ちました。まだまだ駆け出しの新人から、バリバリの管理者になっている卒業生、現在育児に専念している卒業生などおられます。どのような場所や立場であれ、今回の卒業生と恩師からのおたよりは、みなさんのいい刺激になったのではないのでしょうか。今後は、さらに看護を含む医療のあり方が変わり、看護の力がより求められる社会となります。看護学科版をとおして卒業生および恩師との情報交換や交流の場になり、同窓会のメリットを活かせることができればと思っています。

今後とも卒業生のみなさまのご協力を賜りますようお願いいたします。ご意見・ご要望があれば、どしどしお寄せ下さい。

西尾ゆかり、山地亜希